



CAGLIERO 11

カリエロ



168 2022年 12月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



宣教師の皆さん、 サレジオ・ミッションの 友人の皆さん、

兄弟の親しみをこめ、ごあいさつを送ります。最も助けを必要とする人々の間での効果的な活動とともに、私たちのカリスマのアイデンティティーが教会の中で強められることを願い、そのために取り組みながら。

今年、私たち宣教部門は、テーマとして、ソーシャル・ネットワークを通して「**今日、キリストを伝える**」を掲げています。このテーマは、福音宣教の再活性化が一人ひとりから、自分の家庭、社会の中で始まらなければならないという事実¹に光を当てます。福音を告げ知らせるとき、「あなたがたは私の証人となる」という教皇フランシスコがくださったメッセージに一致します。

救い主の誕生を祝う月、12月の初めにあたり、サレジオ家族のメンバーとして福音宣教のミッションを共にする皆さん一人ひとり²を招きたいと思えます。より正義にかなう、兄弟愛に満ちた、より福音化された社会への変容のために、献身を続けましょう。

Heurysman

■ 宣教促進
インターアメリカ地域
コーディネーター
エルナン＝ダリオ・
カルモナ・ロペス神父, SDB

聖フランシスコ・サレジオの宣教戦略



フランス、シャブレ地方での宣教の経験(1594-1597年)を通して、聖フランシスコ・サレジオは宣教の戦略を構築していきました。

まず、**人々の近くにいる**ために、フランシスコは一人の従兄弟だけを伴に、アランジュの城に住むことを受け入れました。毎日、トノンへ徒歩で通うことによって、日常生活を営む人々と出会いました：店・作業場で働く人々、畑で農作業をする農民、家々で過ごす村人たちです。フランシスコはそうにして、飾らない人間関係を人々と結んでいったのです。人々の友となることで、フランシスコの生きたあかしはますます心に訴えるものとなりました。この人間的絆と友情の使徒職は、彼の宣教活動の土台になりました。

第二に、フランシスコ・サレジオは資金・手段に事欠き、**貧しい生活**を送りました。人間的な支えはわずかしかなかった。エルマンス男爵の客としてアランジュ城に住まいを与えられていましたが、カトリックの軍隊の武力に守られて福音を宣べ伝えることを、彼は拒みました。

第三に、フランシスコは**神にのみ希望を置きました**。彼の力は祈りに、トノンへと下って行く前に城の小さな聖堂でささげる日々のミサにありました。侮辱され、嘲笑われても、プロテスタントの人々に避けられたり攻撃されたりしても、フランシスコは大いなる尊敬と深い愛徳をもって相手に接しました。

第四に、フランシスコは、すべての人の心に**愛に向かう自然な傾き**があると確信していました。フランシスコにとり宣教の挑戦は、すべての人を、信じるように、信仰の賜ものを受け取るように、愛なる神の存在を信じるように、助けることでした。愛なる神は、イエスにおいて私たちの人間性のうちに受肉され、私たちへの愛のため十字架にかけられ、私たちが神との愛の交わりに満ち満ちてあずかることができるよう、復活されました。

最後に、フランシスコは、シャブレのどちらかといえば小さな信徒の群れにも、信徒の大群衆を前にするときと同じように心を砕いて**教えを宣べ伝える**ため、よく準備しました。人々が耳を傾けるのを拒むと、フランシスコは**小冊子に教えを記し**、配ってまわりました。教えを宣べ伝える際、またプロテスタントの人々と論じ合う際、プロテスタントの人々のように聖書を用いました。

実に、フランシスコは、何よりも、自らの生き方の模範 – 勇気、信仰、愛徳、教えを説くこと – を通して福音を宣教したのです。それは人々の心を打ち、多くの人を回心へ導きました。

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父 SDB

振り返りと 分かち合いのために

- 聖フランシスコ・サレジオの宣教戦略から学び、私の状況に当てはめられることは？
- 私は自分の生き方のあかしを重視しているだろうか？



メキシコのボランティアと サレジオ・ミッション



マルガリタさん、メキシコのサレジオ宣教ボランティアにとっての現在のポスト・コロナの状況を、どのようにとらえていますか？

新型コロナウイルスのパンデミックの間、メキシコ・グアダハラ管区MEGは、サレジオ宣教ボランティア活動を休止しないと決め、ボランティアの養成と派遣を続けました。もちろんボランティアの数はかなり減りました。ポスト・コロナの今、MEG管区は、若者を神に近づける奉仕とあかしの体験を提供することに引き続き取り組んでいます。そのために、私たちはボランティアを養成、訓練し、各地のサレジオ会の共同体に派遣し続けています。今年は、15名のボランティアが5つの共同体で奉仕しています。

メキシコを支援するために来る、多国籍のボランティアがもたらす最大の利益は何だと思えますか？

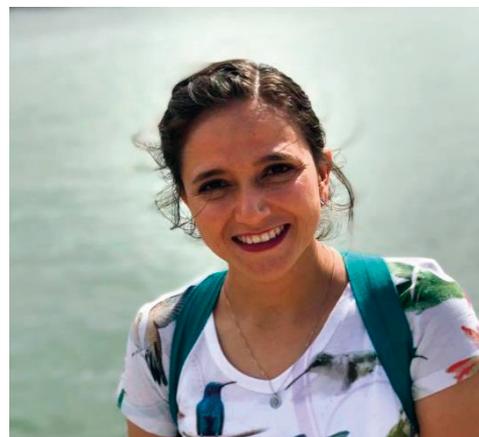
私たちが受け入れる多国籍のボランティアは、それぞれの文化やカトリック信仰の生き方、サレジオらしい喜びを通して、私たちの共同体を豊かにしてくれます。ある部分では互いに似通った点を見いだすこともあります。でも多くの場合、互いの違いがサレジオ・ミッションを完成させるのです。

他方、ボランティアがこのプログラムから受ける利益は、私たちの事業所に来る子どもたち、十代の子たちや青年たちを通して神と出会うということです。その子ども・若者たちは、ボランティアにとって縁遠い、あるいは全く知らない、異なる現実を生きているのです。

女性として、信徒として、サレジオ会がサレジオ・ボランティア活動をよりよく理解し支えるために、何が助けになると思えますか？

まず、宣教促進は重要だという意識を共同体の中で高めることです。さらに、サレジオ宣教ボランティア活動の資料・教材を通して養成を行うことです。

私たちMEG管区では、次の計画指針に従って働くことを決めました：一人ひとりすべてのドン・ボスコのサレジオ会員が、幸せに、兄弟愛のうちに召命を生きるよう、配慮し、それを確保するというものです。それは、友、教育者として、子どもたち、十代の若者、青年たちの間で共にいる、存在の秘跡に始まります。そのようにして、サレジオ会員は、同伴を通して神の愛をあかすことができます。3つの段階において若者に同伴することが重視されなければならないと私たちは強調しています：ボランティアの体験を生きるために準備している若者、ボランティアとして活動中の若者、そしてボランティアをすでに体験した若者、という3つの段階です。サレジオの宣教者は、若者の同伴を決してやめることがありません。



ラウラ＝マルガリタ・アギラレ・アギッレ

メキシコ・グアダハラ管区のサレジオ宣教ボランティア活動 (SMVS) コーディネーター。

メキシコ北部のノガレスで1年間、ボランティアを経験した後、2013年からMEG管区のSMVSコーディネーターとなり、現在に至る。この間、教育学を修める。

コーディネーターとして、ボランティアの訓練と同伴、養成のための会合の企画・主催、各地の共同体で活動するボランティアの訪問などを行う。



ボランティアの声：奉仕活動中、最も大変だったこと

フォーラム	文化環境の違い	共同体の生活	ホームシック	
	● 仕事 39.4%	● 共同生活 36.3%	孤独 6.0%	
	● 文化全般 37.2%	● サレジオ会員 25.8%		
	● 言葉 12.0%	● ほかのボランティア 22.6%		
	● 病気になったとき 8.0%	● 特定の個人 9.7%		
	● その他 3.4%	● FMAのシスター 5.6%		

出典
Dr. J.C.モンテネグロによる論文より

12月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

非営利ボランティア団体のために

メキシコのサレジオ宣教ボランティア、
また過去のボランティアたちのために。

人間の向上に取り組む非営利ボランティア団体が、共通善に献身する人々を集め、国際的な協力に向かう新たな道を絶えず見いだしますように、祈りましょう。| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

メキシコ
のために

